

商・増田ゼミ×カンロ 共創商品第2弾

新食感のりんごキャンディー

「さっくりん」発売中



岩淵里央さん、茂手木菜未さん、柴山萌さん。24年の構想開始から市場調査、企画設計、プレゼンなどを経て、約1年半かけて商品化にこぎ着けた。

こだわったのは食感と機能性。外側は薄く仕上げたキャンディー、内側はりんごのフリーズドライの二層構造にすることで、かんでも楽しめる「さくさく食感」を実現した。短時間で手軽にフルーツを味わいたいというZ世代の高タイパ志向に応えた。個包装には、他のゼミ生の協力も得て、「しあわせ、かじっちゃえー」など全30種類のメッセージを添えた。

「次々と商品のアイデアが出てきて、話し合いは本当に楽しかった。4人の意見が『これだ!』と一致する瞬間には大きな達成感があった」と振り返る。りんご籠をあしらったパッケージや、オリジナルキャラクターの赤丸リントローム、そうした和気あいあいとした議論から生まれた。

完成した商品を手にした4人は、「愛着を持って作り上げた商品がようやく形になり、多くの方に届けることができうれしい」と声を弾ませた。

全国のセブンイレブンで販売中。

マーケティングが専門の商学部・増田明子ゼミとカンロ株式会社(新宿区)による共創商品第2弾として新食感のりんごキャンディー「さっくりん」が1月27日、発売された。企画・開発に携わったメンバーは、「コンセプトは『おいしいなしあわせ あなたにお届け』。商品を手にとった方にひとときの癒やしを感じてもらえたら」と話している。

増田ゼミは2021年度からカンロと協働して、Z世代向けキャンディーの商品開発に取り組んでいる。24年には、一粒で二つの食感を楽しめる「#チョコじゃねーよアamedaよ」を発売。ユニークな商品コンセプトが若者を中心に支持され、SNSなどで話題になった。同商品は25年にもリニューアル発売された。

今回「さっくりん」を手がけたのは、3年次生の小川菜花さん、



「さっくりん」を手がけたメンバー

◆最優秀賞受賞チーム◆

※敬称略、先頭がリーダー。カッコ内は所属ゼミ。学年は全員3年次

平沢萌々花 中倉心菜 慶本拓実
日向錬輔
(商学部・石川和男ゼミ)

中島萌望 木田果歩 菅野織乃
安瀬倅希 斎藤すみれ
(商学部・大崎恒次ゼミ)

宇野澤ゆうり 中尾心晴 鈴木亜衣
栗原紘嗣 中山日菜乃 山梨海詩
(商学部・谷守正行ゼミ)

村田涼輔 岡村紗良 中村萌香
西村美緒 柴山萌 井上遥紀
(商学部・増田明子ゼミ)

高野優作 馬場拓海 山田娃実
岩淵里央 桑山楓梨
(商学部・増田明子ゼミ)



最優秀賞、優秀賞を受賞した学生たち

第21回神奈川産学チャレンジプログラム 最優秀賞に5チーム

神奈川経済同友会主催 決型研究プログラム「神の産学連携による課題解決 奈川産学チャレンジプログラム」の表彰式が12月16日、横浜市のパシフィコ横浜で開催された。本学からは最優秀賞に5チーム、優秀賞に11チームが選ばれた。

21回目となる今回は神奈川県内の36企業、20大学が参加した。企業から提示されたテーマに、185チーム(845人)がエントリー。レポート審査、プレゼンテーション審査を通過した67チームが入賞し、表彰式に出席した。本学からは43チーム(206人)が参加し、16チーム(80人)が表彰された。

テーマは、AIやDXといったデジタルネイティブ世代が直面する課題に取り組み、店舗やイベントへの集客策、イメージアップ戦略の立案など多岐にわたった。学生たちは、ゼミや授業での学びに加えて、現地調査やアンケートで得られたデータを基に具体的な解決プランを提示した。

企業や行政の関係者を招いて行われた成果報告会



鹿住ゼミは、2、3年次生24人が5班に分かれ、昨年11月に企業研

中小企業の成功要因を分析

商・鹿住ゼミ

中小企業やベンチャー企業の経営を研究する商学部の鹿住倫世ゼミは、後期の授業で、「技術開発・製品開発の成功要因」をテーマに企業研究に取り組んだ。1月19日、神田キャンパスに企業関係者や川崎市経済労働局職員を招き、研究成果を報告した。

鹿住ゼミは「事業化に至る背景やきっかけを学ぶことができた。新規事業の開発に興味があるので、とても参考になった」と話した。

学部の鹿住倫世ゼミは後期の授業で、「技術開発・製品開発の成功要因」をテーマに企業研究に取り組んだ。1月19日、神田キャンパスに企業関係者や川崎市経済労働局職員を招き、研究成果を報告した。



長期交換留学 第1期に6人

2026年度長期交換留学プログラム(第1期)の留学生が決まった。留学先と派遣期間、氏名、学部学年は次の通り。(敬称略)

- ウーロンゴン大学(オーストラリア、2月〜11月) 馮詩怡(商2)▽小林礼佳(文2)▽海藤匠(文2)
- ワイカト大学(ニュージーランド、2月〜11月) 柳田勲太(文2)
- リヨン政治学院(フランス、1月〜27年1月) 大森みゆ(経済2)
- 国立中山大学(台湾、2月〜27年1月) 高岡里奈(法2)



地域とともに SDGs出前授業

ロボットプログラミングの体験授業

情報科学研究所(松永賢次所長)では、2023年度から地域貢献活動の一環として出前授業を実施している。1月16、19日には、川崎市多摩区のSDGs出前講義に協力し、東生田小学校の6年生4クラスでロボットプログラミングの体験授業を行った。

SDGsの意義や基本的なプログラミングを学んだ。後半は、「壁の30センチ前で右に曲がる」などのコマンドを組み合わせ、障害物が置かれたコースを走り切る自動運転プログラム作り挑戦した。

石井教授は「失敗しても修正することで、できることが増えていったと思う。何度も繰り返して、少しずつ良いものにしていくのがプログラミングのコツ」と授業をまとめ、「これからも興味を持って、いろいろなことに挑戦してほしい」と伝えた。

SDGs出前授業は、多摩区役所と同区にゆかりのある企業・大学が連携する新しい試み。区内の小学生を対象に、総合的な学習の時間などを利用して体験型授業を行うもので、25年度は7校で展開された。石井教授は「情報科学研究所では、デジタル灯籠づくりや算数プログラミングなど、多彩な授業を用意している。今後も多摩区との連携を図り、専修大学の知を発信していきたい」と展望を語った。



講師はネットワーク情報学部の石井健太郎教授が担当し、児童たちにプログラミングの重要性と楽しさを伝えた。

授業のテーマはSDGs目標9「産業と技術革新の基盤をつくろう」に関連した「自動運転車を作ってみよう」。児童たちは、